

1119

旧番号
A1119

自明治十五年六月
至全
本行創業二関スル書類
創業者諸回議簿

天馬保	
存保	
第 五 冊	第 壹 番
第	號
棚	

大正八年受理

金融史資料	
分類記号	I Am
整理番号	24(1)
資料名	本行創業二関スル 書類
保管容器	ス27-2-3

研30009

通貨、金融史料	
分類	IB a 7n
整理番号	い 20(1)
受入番号	2392
名称	本行創業二 関スル書類
備考	

シロ上

文書局



下年
赤男期

薄誠回諸業創



△ 著 至 貴 卷 分

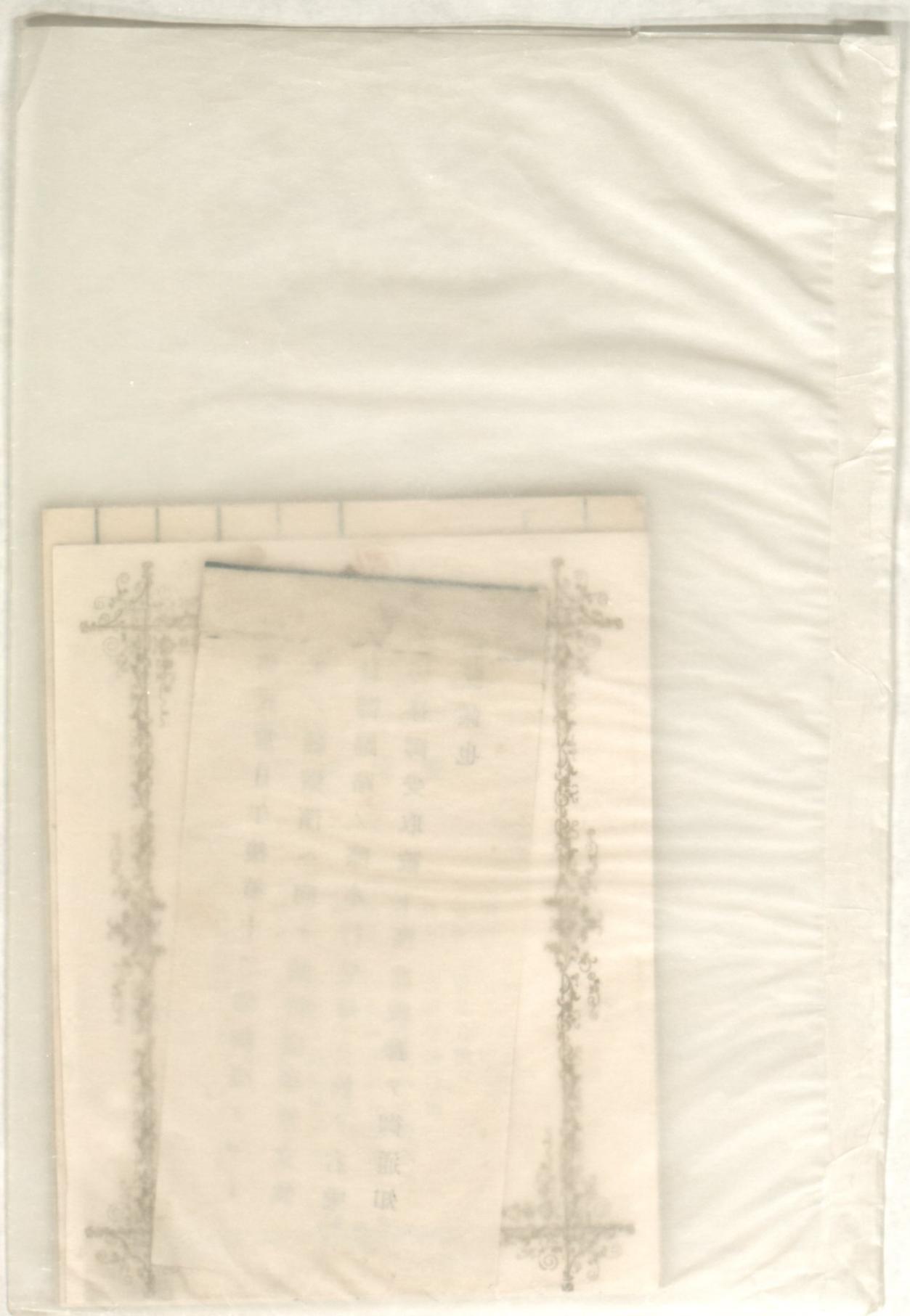


拜啓陳ハ本月二十八日大藏卿
臨場日本銀行開業式執行相成
候ニ付同日午後第三時永代橋
際當銀行ハ御奉會被下度致希
望候敬具

明治十六年四月廿五日

日本銀行總裁吉原重俊

追テ同日夜會相催候義ハ過日御案内申上置候
通りニ御座候此段爲念申添候也



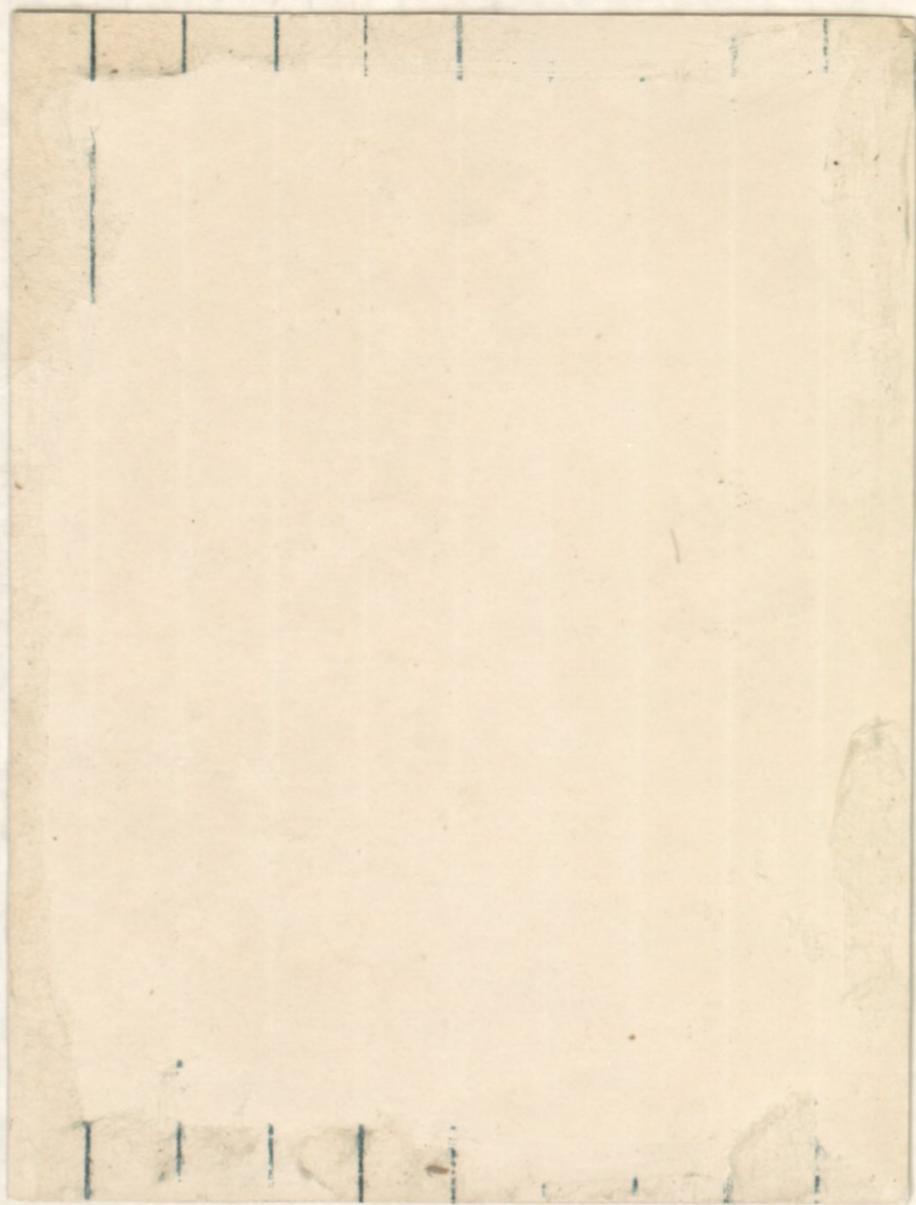
拜啓陳ハ来ル二十六日當銀行
ニ於テ晚餐差上度候間同日午
後六時御光臨被下度致希望候
敬具

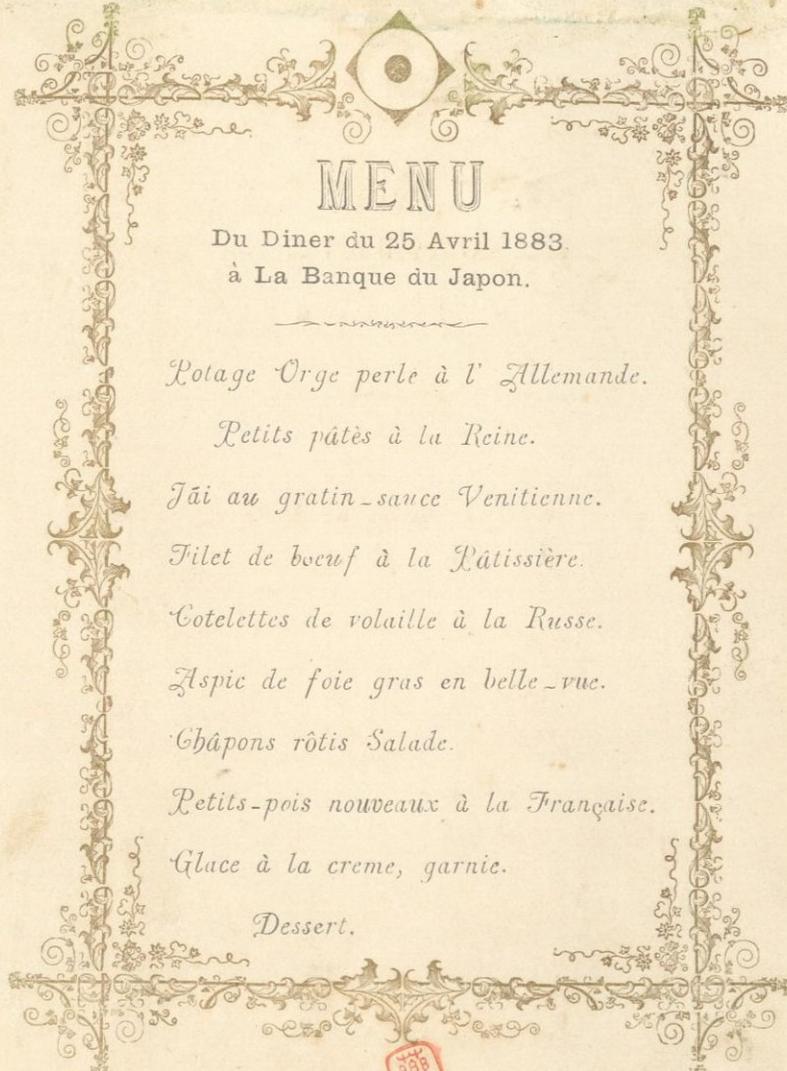
御諾否ノ貴答ヲ乞

明治十六年四月十五日

日本銀行總裁吉原重俊

御常服ニテ不苦候





MENU

Du Diner du 25 Avril 1883.
à La Banque du Japon.

Lotage Orge perle à l' Allemande.

Petits pâtés à la Reine.

J'ai au gratin-sauce Venitienne.

Filet de boeuf à la Pâtissière.

Cotelettes de volaille à la Russe.

Aspic de foie gras en belle-rue.

Châpons rôtis Salade.

Petits-pois nouveaux à la Française.

Glace à la creme, garnie.

Dessert.





紀元二千五百四十年

四月二十五日於本日銀行

饗應獻立



- 一 羹汁
 - 一 菓物
 - 一 魚肉
 - 一 獸肉
 - 一 鳥肉
 - 一 獸肉
 - 一 鳥肉
 - 一 蔬菜
 - 一 アイスクリーム
 - 一 食事臺飴付菓子
- 數品合製
 - 鯛笹身掛汁製
 - 犢脊肉洋品合製蒸燒
 - 野鳥肉洋菌合製蒸煑
 - 獸肉洋品油煎製
 - 牡鷄肉蒸燒製野菜
 - 豌豆熟製佛蘭西風
 - 數品

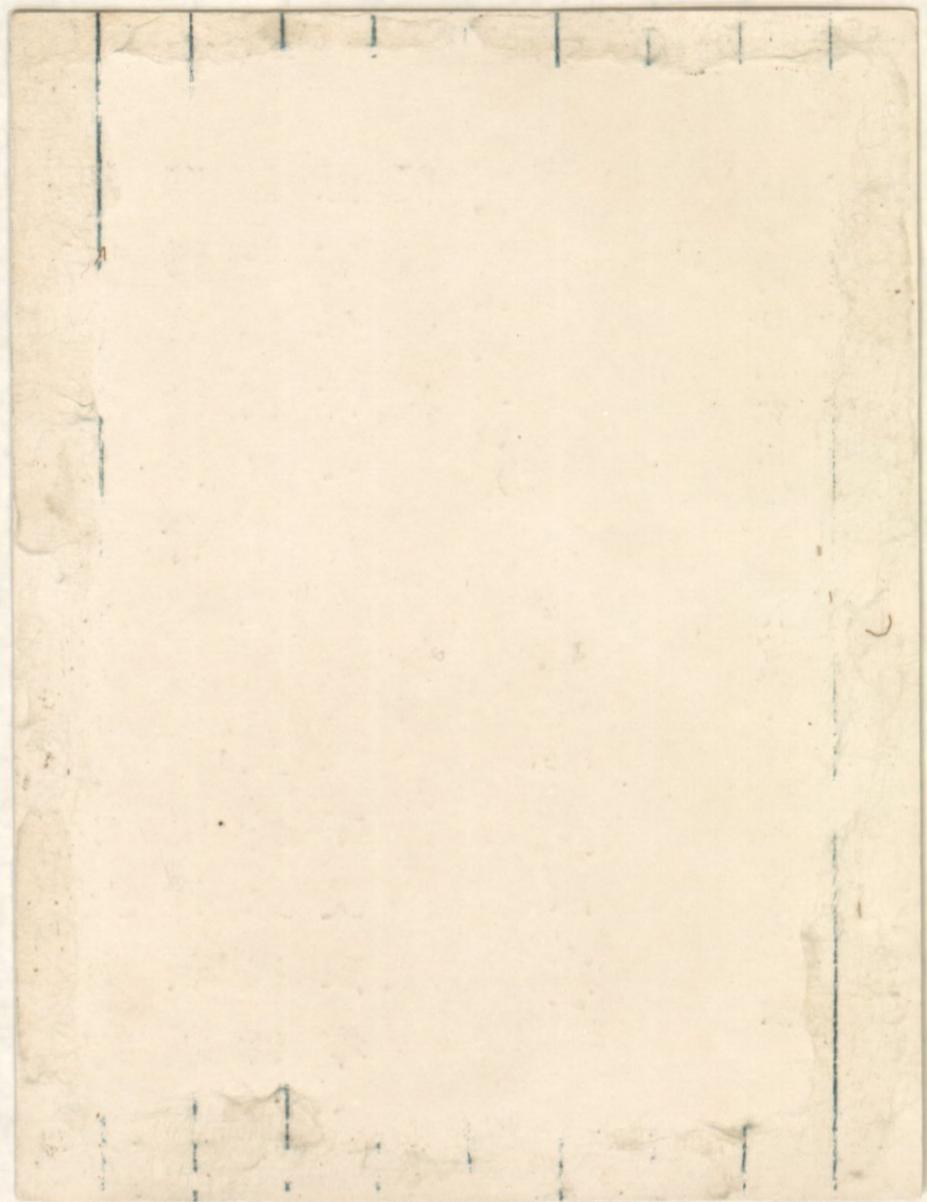


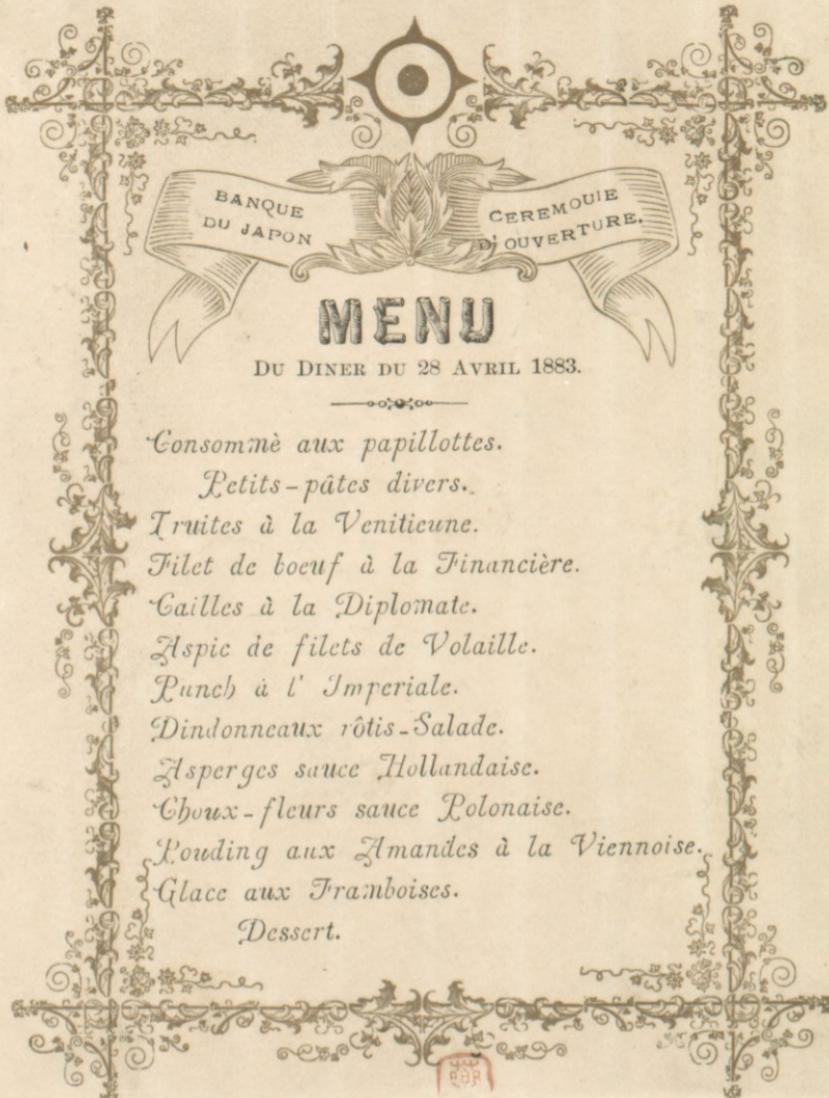
拜啓陳ハ本月二十八日大藏卿
臨場日本銀行開業式執行相成
候ニ付同日午後第三時永代橋
際當銀行へ御来會被下度致希
望候敬具 但シ小禮服用之事

明治十六年四月廿五日

日本銀行總裁吉原重俊

追テ同日夜會相催候義ハ過日御案内申上置候
通りニ御座候此段爲念申添候也





BANQUE
DU JAPON

CEREMOIE
D'OUVERTURE.

MENU

DU DINER DU 28 AVRIL 1883.

Consommé aux papillottes.

Petits-pâtes divers.

Trites à la Venitienne.

Filet de boeuf à la Financière.

Cailles à la Diplomate.

Aspic de filets de Volaille.

Punch à l' Imperiale.

Dindonneaux rôtis-Salade.

Asperges sauce Hollandaise.

Choux-fleurs sauce Polonaise.

Louging aux Amandes à la Viennoise.

Glace aux Framboises.

Dessert.





本日銀行 開業式

紀元二千五百四十年
四月廿八日

應 獻 立

- 一 羹汁
- 一 温飩肉製 數品合製
- 一 魚肉 鱒魚蒸燒製
- 一 獸肉 犢脊肉洋品合製
- 一 鳥肉 鶉肉蒸燒製
- 一 鳥肉 野鳥肉魚類洋菌合製
- 一 製酒
- 一 鳥肉 七面鳥蒸燒製野菜
- 一 蔬菜 天門冬並牡丹菜掛汁製
- 一 製菓 巴旦杏製
- 一 アイスクリーム 覆盆子製
- 一 食事臺飾付菓子 數品

開業式當日午後第十二時新橋ステー
ション發橫濱へ向ケ臨時瀛車差立候
ニ付御歸路ノ際本行受付ニ於テ右乘
車切符御受取被下度此段豫テ御通知
致置候也

諸經費

第四〇 甲 第一号 泉銀行創立費用之件

第五〇 甲 第二号 泉銀行條例頒布及諸府縣內諭之件

第六〇 甲 第三号 開拓使出張所泉銀行借用之件

第八〇 甲 第四号 泉銀行創立費大藏省會計局於三學替之件

第九〇 甲 第五号 日本銀行建築之件

第十四〇 甲 第六号 日本銀行株主加入認可之件

第十五〇 甲 第七号 日本銀行創立事務所北新堀町へ移轉之件

第十六〇 甲 第八号 日本銀行定款認可之件

第十七〇 甲 第九号 日本銀行條例第十九條監事撰舉之件

第十九〇 甲 第十号 日本銀行開業三付上申之件

第二一〇 甲 第十一号 日本銀行開業以後日本銀行名宛ヲ以照會儀會計局并金納局照會之件

第二三〇 甲 第十二号 株金拂込金方納局預三付各銀行へ通知之件

銀行

日本銀行創立事務所回議目錄

第二五〇

乙ノ第壹号

株主募集ノ義ニ付大藏卿(上申)之件

第二九〇

乙ノ第貳号

株主募集廣告各新聞(揭示)之件

第三一〇

乙ノ第參号

株主募集廣告ノ議ニ付各府縣(照會)之件

第三三〇

乙ノ第肆号

大坂松平重二郎(宅徳平外四名)之本願旨差出方催促之件

第三四〇

乙ノ第伍号

村山龍平(本願旨差出方電報ヲ以テ催促)之件

第三六〇

乙ノ第陸号

株金満額ニ付志願者ハサ七日迄ニ金額電報ヲ以テ申込之件

第三七〇

乙ノ第柒号

株券印刷之件

第三九〇

乙ノ第八号

株金追願ノ名々金額姓名ヲ電信ニテ報知之議通知之件

第四一〇

乙ノ第九号

株金加入差留各府(照會)ノ件

第四四〇

乙ノ第十号

株主加入指株以下差戻之件

第四五〇

乙ノ第十一号

大坂外山修造電報ヲ以テ呼出之件

第四六〇

乙ノ第十二号

株券差ニ第一回入金受取証注文之件

第四七〇

乙ノ第十三号

株主加入差雷ノ義ニ付再應各府縣へ通知之件

第四八〇

乙ノ第十四号

杉田幸五郎諸搦械製造願之件

第五一〇

乙ノ第十五号

事務所等印調製之件

第五二〇

乙ノ第十六号

日本銀行諸帳簿調製ノ件

第五四〇

乙ノ第十七号

株主加入株金確實報知各府縣へ依頼之件

第六一〇

乙ノ第十八号

第一回入金受取方依頼之儀

第六二〇

乙ノ第十九号

日本銀行第一回株金入金手之儀

第六六〇

乙ノ第二十号

日本銀行株主へ通知印刷方之件

第六七〇

乙ノ第二十一号

日本銀行株主加入ニ應スル通報各地方廳經由二府府知事縣令照會之件

第六八〇

乙ノ第二十二号

當事務所移轉ニ付日用品買入之件

第七一〇

乙ノ第二十三号

國庫ヨリ御加入相成戻株金第一回入金之儀ニ付大藏卿へ上申索伺之件

第七一〇

乙ノ第二十四号

日本銀行本店採用ノ儀ニ付掲出張所現金御拂下上申之件

第七三〇

乙ノ第二十五号

日本銀行創立費三万円ヨリ築建費内六千圓請取方之件

第七四〇

乙ノ第卅六号 志賀隆庸外ニ名宿直ノ義行職負掛(照會之件)

第七五〇

乙ノ第卅七号 給仕先ニ小使差廻シノ儀會計局(照會之件)

第七六〇

乙ノ第卅八号 當事務所新堀町(移轉ニ付驛逆局(照會之件)

第七七〇

乙ノ第卅九号 川島正訓及辞令昏渡方之件

第七八〇

乙ノ第卅十号 九等属逸見清晨ニ早出之件

第七九〇

乙ノ第卅一号 當事務所移轉ニ付是迄ノニ階室引拂之儀會計局(照會之件)

第八〇〇

乙ノ第卅二号 株金入金ノ案内昏ヨリ活版印刷之件

第八一〇

乙ノ第卅三号 吉原小輔ヨリ申込ニ株主差加之件

第八二〇

乙ノ第卅四号 犬飼清久雇入之件

第八三〇

乙ノ第卅五号 朱肉購求之件

第八四〇

乙ノ第卅六号 諸帳簿購求方之件

第八五〇

乙ノ第卅七号 記帖用定規コンパツ鳥口購求之件

第八六〇

乙ノ第卅八号 郵便切手購求方之件

第八八〇

乙ノ第卅九号

松田幸五郎ノ付置買入代内三百五十内渡方會計局ハ照會之件

第八九〇

乙ノ第四十号

正金仕拂用心金請取方會計局ハ照會之件

第九十〇

乙ノ第四十一号

株金及請取証ハ押用スヘキ姓名先ノ殿ノ字調製方之件

第九一〇

乙ノ第四十二号

川島正訓犬飼清久ハ月俸渡方之件

第九二〇

乙ノ第四十三号

原善三郎外一名ヨリ第一面入金願ニ付回答之件

第九三〇

乙ノ第四十四号

株主数名集會ニ付案内状差送り之件

第九四〇

乙ノ第四十五号

當事務所ニ於テ用元印影會計局ハ通知之件

第九五〇

乙ノ第四十六号

日本銀行開設ニ付行内取締之爲ニ巡查四名晝夜交番之件

第九六〇

乙ノ第四十七号

伊集院兼常ヨリ建築落成日限日延願之件

第九七〇

乙ノ第四十八号

大土瓶壹個購求之件

第九八〇

乙ノ第四十九号

黒印肉購求之件

第九九〇

乙ノ第五十号

中奉書壹帖購求之件

第百〇〇

乙ノ第五十一号

麻裏草履五足購求之件

第百〇一

乙ノ第五十二号

麻裏草履五足購求之件

第四百四△ 乙ノ五十二号 西洋蠟燭三袋購求之件

第四百五△ 乙ノ五十三号 石炭油購求之件

第四百六△ 乙ノ五十四号 日本蠟燭購求之件

第四百七○ 乙ノ五十五号 株金募集手續之義ニ付滋賀縣ハ電報ニテ御回答之件

第四百八△ 乙ノ五十六号 銅章牙章三函九題購求之件

第四百九△ 乙ノ五十七号 正金仕拂用心金請取方會計局ハ御照會之件

第五百○ 乙ノ五十八号 大坂株主第一回入金取纏方之義大坂三國立銀行外六行三支店依

頼之件

第五百一○ 乙ノ五十九号 株主氣賀林株金申込重複之義云々聞届可然哉之件

第五百二○ 乙ノ六十号 水谷藤十郎外三名申込株高二百個金澤為換會社名前更之件

第五百三○ 乙ノ六十一号 第一回株金入金及請取證ハ印紙貼用之義ニ付租稅局ハ照會之件

第五百四○ 乙ノ六十二号 愛媛縣ハ拾株以下申込ニ應セサル旨報知之件

第五百五○ 乙ノ六十三号 株金變換之義ニ付藤本清七外名ハ御通知之件

第一二四〇

乙ノ六十四号

大坂府知事へ株金通報書之義ニ付御回答之件

第一一七〇

乙ノ六十五号

寫字料仕拂之件

第一一六〇

乙ノ六十六号

各地方ノ確實ナル銀行ト為換取引相成ニ付六銀行局長御問答之件

第一一三〇

乙ノ六十七号

第一回入金出納局へ預方照會之件

第一一三二〇

乙ノ六十八号

硝子掃除用硫酸其外仕拂之件

第一一三三〇

乙ノ六十九号

室内掃除人足雇入之件

第一一三四〇

乙ノ七十号

小使人数並ニ給料等取極之件

第一一三五〇

乙ノ七十一号

足銀行搦内取締之為巡査出張之儀警視總監宛照會之件

第一一三七〇

乙ノ七十二号

仮帖簿二十冊購求之件

第一一三八〇

乙ノ七十三号

卷紙用中奉書並ニ大廣奉書購求之件

第一一三九〇

乙ノ七十四号

第一回入金國債局へ照會之件

第一一四一〇

乙ノ七十五号

第一回入金之義ニ付國債局へ回答之件

第一一四三〇

乙ノ七十六号

滋賀縣ヨリ第一回入金大坂出納局へ納込之旨通知ニ付回答之件

第一四四〇 乙ノ第七十七号 三田倍外八名ニ辭令渡方ノ件

第一四五〇 乙ノ第七十六号 第二面入金受取証台不足ニ付尚又百枚刷立之義印刷局ニ照會之件

第一四六一〇 乙ノ第七十九号 第二面受取証不足ニ付尚百枚買入之件

第一四七〇 乙ノ第八十号 株金大阪出納局出張所ニ受入ノ金額出納局ヨリ通知付回答之件

第一四九〇 乙ノ第八十一号 政府御加入之分第二面入金國債局ヨリ請取之件

第一五一一〇 乙ノ第八十二号 株金大藏省出納局ニ相預収支取扱方之義ニ付回答之件

第一五二〇 乙ノ第八十三号 正金仕掛用心金請取會計局ニ照會之件

第一五三〇 乙ノ第八十四号 株金出納局ニ預中右金引出方用テ切符請取方之件

第一五四〇 乙ノ第八十五号 第二面入金出納局ニ預置之件

第一五六〇 乙ノ第八十六号 二階各室ニ引イルクローニ敷込手間料差ニ着手之件

第一五七〇 乙ノ第八十七号 大阪出納局出張所株金受入通知ニ付回答之件

第一五九〇 乙ノ第八十八号 猪間義綱株式九鬼隆備ニ讓渡之件

第一六一〇 乙ノ第八十九号 株金出納局預入方ニ付通知之件

第一六四〇 乙ノ第九十号 第二面入金第二銀行受入ノ分出納局ニ預込之義ニ付通知之件

第一六五〇
第一六七〇
第一六八〇
第一七〇〇
第一七一〇
第一七二〇
第一七三〇
第一七四〇
第一七五〇
第一七六〇
第一七七〇
第一七八〇
第一七九〇
第一八〇〇
第一八一〇
第一八二〇
第一八三〇
第一八四〇
第一八五〇

乙ノ第九十号 日本銀行株券裏面文言決定之件

乙ノ第九十号 毎日新聞社、廣告料仕掛之件

乙ノ第九十号 捕内取締為巡查交番之件

乙ノ第九十四号 役員名簿購求之件

乙ノ第九十五号 二階下四百五十八坪ヲイッコロヒ敷之代仕拂方之件

乙ノ第九十六号 當株金大坂出納局出張所へ金員拂込取調照會之件

乙ノ第九十七号 當行株主三銀行ヨリ出納局へ願濟之分云々之件

乙ノ第九十八号 日本銀行捕内へ巡査出張之義行警言視總監へ回答之件

乙ノ第九十九号 向望銀行外名、株金入金催促之件

乙ノ第一百号 泉銀行商業新聞紙ヲ以テ廣告ノ件

乙ノ第一百号 第一回入金取扱方第一銀行外二行へ約条ノ件

乙ノ第一百号 平松武兵衛外五名へ株金入金催促ノ件

乙ノ第一百号 美濃十三行封紙請取之義大蔵省會計局へ照會ノ件

第一八六〇

乙第百四号

硯其外付器代價仕拂之件

第一八七〇

乙第百九号

創経費金の内金千四請取方大藏省會計局へ照會ノ件

第一八八〇

乙第百六号

時斗四箇並三金貳個購求之件

第一八九〇

乙第百七号

谷地方銀行へ取引ノ義ヲ銀行局へ問合ノ件

第一九一〇

乙第百八号

三井本店ノ支店へ通知ノ義ヲ滋賀縣へ電報回答ノ件

第一九三〇

乙第百九号

第百回入金拂之義ヲ大坂出納局出張所へ照會ノ件

第一九四〇

乙第百十号

長テーブル調製ノ件

第 第 第

内務省之及次、田邊、中米、島、分、付、机、入、機、官、ノ、一、校、合、濟、商

二枚
明治十五年六月

銀行局長加藤 濟

十五年六月三九日
報百二十八号

五七示

十五年六月九日
受付課達濟

十五年六月廿日
報百十四号

大受乾初三
十五年六月廿日
受付課達濟

卿

輔

三等出仕

議案局

會計局

日亦銀行創立之儀、中省ニ於テ着手ニ成ニ付更ニ創立委員及事務係ヲ命セラルル開業ニ至ルニテ一切ノ事務務ク為取扱ニ様仕度尤該委員ノ給料并他ノ費用ハ一時強ク進出テ該銀行創業力費トシテ返済為政ニ様仕度且該銀行創立ノ事務中省ニ於テ取扱ニ旨一般、以告示為本ニテ可

Handwritten note on a small slip of paper at the top right corner.

十五年六月二十九日
報百二十八号

十五年六月十九日
受行課達濟

十五年六月十七日
報百十四号

十五年六月十七日
受行課達濟

甲 拾九号

明治十五年六月

銀行局長 加藤 清

卿

輔

三等出仕

議案局

會計局

日亦銀行創立之儀ハ中者ニ於テ着手ニ成ニ行更ニ創立委員及事務係ヲ命セラレ開業ニ至ルニ一切ノ事務ヲ為取扱ニ様仕度尤該委員之給料等他ノ費用ハ一時強者並進テ該銀行創設費用費トシテ返済為政ニ様仕度且該銀行創立ノ事務中者ニ於テ取扱ニ旨一般ニ告示未キ本ノ戸可

日本銀行

然否、因之太政官、何案及告示案、其源、此也
如何也

先加字一多

太政官、何案

今般也 号云、日本銀行、係、何、領、布、其、成、之、付、之、
法、制、の、創、立、に、際、し、確、實、督、理、を、要、し、且、右、案、
本、の、才、能、に、依、り、充、て、ら、れ、儀、に、依、り、創、立、
ノ、事、務、に、關、し、中、者、に、於、て、可、擔、之、者、中、に、日、本、銀、行、
創、立、の、案、を、採、り、設、け、創、立、を、委、任、し、合、し、據、之、名、
集、事、ノ、手續、ヲ、始、メ、終、メ、創、業、ノ、途、一、切、ノ、事、務、
要、件、を、以、て、中、者、ノ、下、に、委、任、し、開、業、之、日、也、
之、に、依、り、各、名、義、ヲ、解、釋、す、該、銀、行、ノ、引、換、シ、
據、付、が、尤、モ、創、立、ニ、依、り、一、切、ノ、費、用、（赤字）定、額、を、以、
て、引、換、シ、進、行、該、銀、行、創、業、ノ、費、用、ト、シ、テ、債、多、為、成、ス

此其如の也

大藏

大政大臣宛

出告示案

今般大政官第廿期多ク日本銀行際例布告
其申す事ニ由り省中、該銀行創立事務取扱所ノ
設テ創立事務多ク置キ創業者一切ニ係ル事務ヲ為取扱
キ案為心以テ告示出ス事

大藏

明治十五年二月十九日

銀
十五
七
日
口
受
分
銀

日
不
銀
不

十五年七月一日
報一五号

中興書
批第百五十七号
十五年七月一日

受乾第三四号

日本地の際所の故布に依りて市中、諸地の
創立之事費可抵不設立ノ義に付何

今般第三十二号ヲ以テ市中地の際所故布五
付テ諸地の創立ノ際諸地ニ確實整理ヲ要シ且
亦地ノ政府ヲ福元セシメ義ニ依リテ創立ノ事
ヲ總テ
テ者者、於テ度撥シ而シテ市中ヘ以テ地ノ
板所ヲ從テ創立ノ事負テ負テ標立ノ事集
ヲ始メ都、創業ノ條ハ一切事務諸處辦
第一回入金取添ニ開業ノ旨ニ至リテハ右
ヲ解中切テ諸地行ノ引渡シモ様仕
ニ係レ一切ノ費用ハ皆中者定額金
ナレバ一切ノ費用ハ皆中者定額金
ナレバ一切ノ費用ハ皆中者定額金

三

禁

清

富

取本何也

明治十五年六月廿七日

大藏卿 松方正義

大政大臣 三條實美 殿

伺之趣聞届候事

明治十五年六月廿八日

十五年七月五日
報

會計局

十五年七月五日
受在簿(等)内

甲 壹 號

明治十五年六月廿日

日本銀行 創設之委多

知

接

三 示 出 仕

日本銀行創設之事務所費用之義事出有定額
ノ内ノ繰上替り置り八十名以安敷有成之者一左面
會計局ノ所達在帳面内也

安下

會計局

日本銀行創設事務所費用之義事出有定額

日本銀行

詔如行_レ五年_レ下_レ汝身_レ創_レ之_レ正_レ問_レ之_レ為_レ
者_レ定_レ額_レ之_レ心_レ之_レ經_レ者_レ仕_レ拂_レフ_レハク_レ年_レ多_レ也_レ
達_レ之_レ事_レ

日

フ

甲二

明治十五年六月廿日

日本銀行創立委員百田鐵之助

仰

輔

加藤清

三等出仕

今般日本銀行條例は頒布お成り存

テ各銀行會社等於テ誤解等ノ憂

アラシモ如何ニ存付豫テ各縣令マ

テ且内務省或モ万可防分依テ且内狀

案左ニお存也

今般日本銀行條例は頒布お成り存

テ各銀行會社等於テ或ハ其趣旨ノ在ル所ヲ

辨知セサルヨリシテ何等ノ誤解アラシモ少ク

ト存ス一俾該銀行創立ノ趣旨タル別冊説

五

明中ニシテ海通スル如ク畢竟一般ノ金融ヲ疏
 通シテ銀行會社等ニ至ルマテ其資力ヲ擴張
 スルノ便ヲ得セシメントスルノ事ニ至ル者之就テハ各國
 之銀行ハ勿論一般會社ニ至ル迄右等ノ誤
 解ニ至ラザルヲ厚ク且便ニ至ラ成否 依テ該說明
 書一冊ヲ添付スルニ由リ得共ニ之ニ至ル也
 年ノリ
 大正九年

本府 縣 存 在

甲二

明治十五年六月廿日

日本銀行創立委員富田鐵之助

柳

加賀屋

輔

三等仕

今般日本銀行條例目録布お成り存

テ、若銀行會社等於テ誤解等、有變

アラシモ如何ト存付豫テ各縣令マ

テ、且由論お成り万可然分依テ、且由狀

案左ニお有也

今般日本銀行條例目録布お成り存テ、

若銀行會社等於テ或ハ其趣旨ノ在ル所ヲ

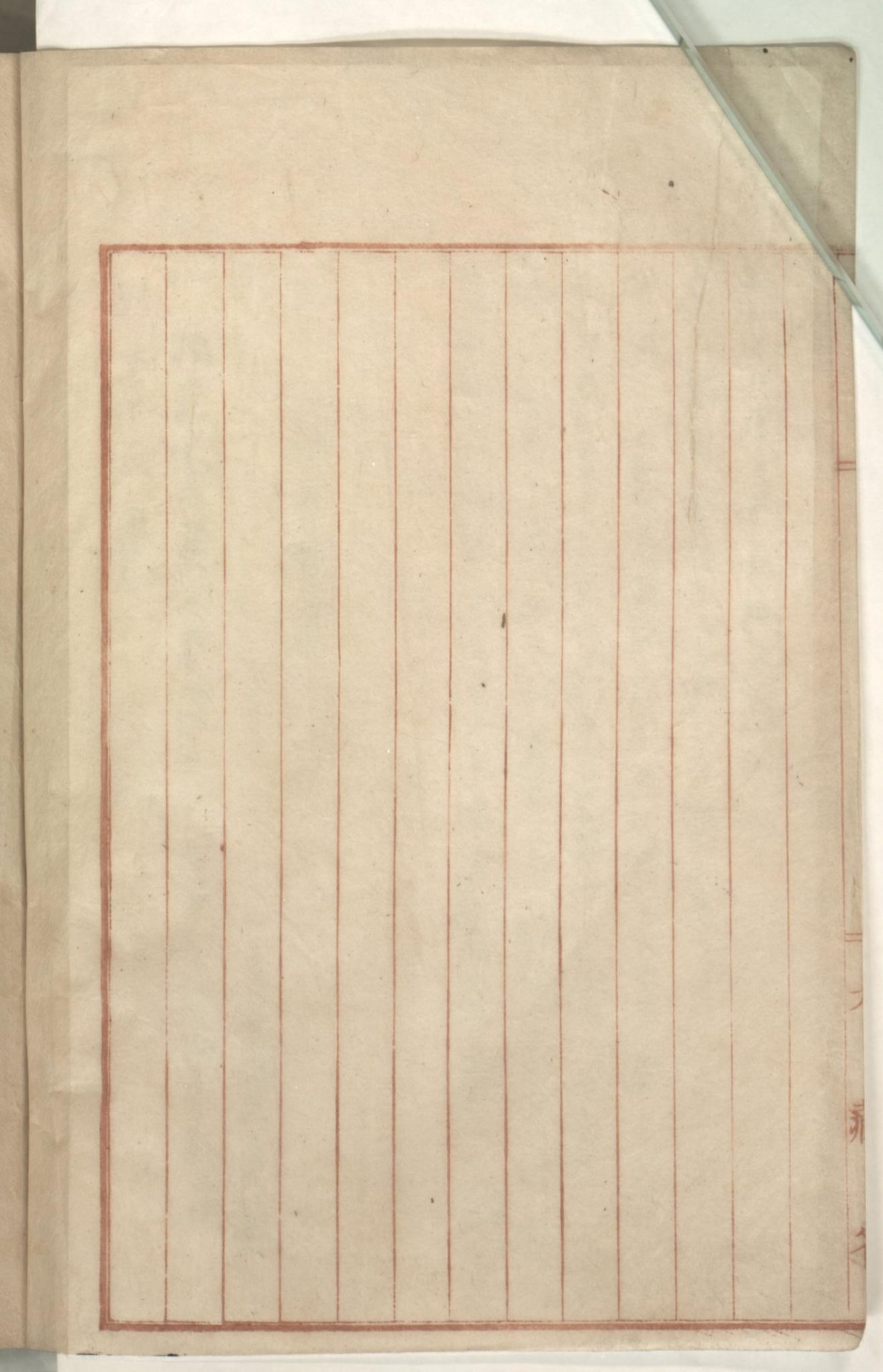
辨知セサルヨリシテ何等ノ誤解アラシモ少ク

存テ、一俸該銀行創立ノ趣旨タル別冊

五

明中ニ至ル迄スル如ク畢竟一般ノ金融ヲ疏
 直シ道ヲ銀行會社等ニ至ルマテ其資力ヲ擴ク張
 スルノ便ヲ得セシメントスルノ事ニ至ル之就テハ各國
 之銀行ハ勿論一般會社亦至ル迄右等ノ誤
 解ニ至テ得テ厚ク便ニ至ル迄依テ誤解明
 考一冊ヲ添付スルニ由テ得ル之ニ至ル也
 年ノリ
 大正九年

青島縣會館



甲 第四号

明治十五年八月廿四日 日本銀行創立五十周年紀念

大正九年九月

創立五周年



日本銀行創立五周年記念として時大花有會計向於
撰誌呈出、創立五周年に於て日本銀行より送付するもの
分左に由委負有り、大正九年、大正九年、大正九年、大正九年
相窺也

大正九年九月

日本銀行創立五周年記念として時大花有會計向於
撰誌呈出、創立五周年に於て日本銀行より送付するもの
分左に由委負有り、大正九年、大正九年、大正九年、大正九年
相窺也

經黃才ん手三為象三五成爲一 依好書用之
出言語限新刻之書也 近道三行 留一碑 亦有
行書之曰有り 色三為象 少控 坊 成 於 合 計 高
支 出 方 換 者 古 如 根 成 多 時 以 上 年 一 也

明治十五年八月廿五日

日本銀行創立子務委員

大正持古古記古如夏(齊)

大正持古古記古如夏(齊)

大正持古古記古如夏(齊)

大正持古古記古如夏(齊)

八月十九日

甲五號

明治十五年八月廿五日

日本銀行創立子會所取

一、小原志賀、隆庸

坂

輔

三井也仕

創立事務委員

會計局

田

高

野

勝

會計局

十五年八月廿五日
邊白理達像

日本銀行創立子會所取
及函送時、踏、其、常、有、官、用、地、以、貸、活、之、義、務、可、也、耳、其、事、也、
向、其、身、其、建、設、外、外、常、繪、圖、面、之、通、至、急、其、業、仕、度、也、
者、該、行、以、業、上、最、為、緊、要、之、事、處、也、是、非、開、店、前、悉、也、

九

日本銀行

落成、海、間、在、建、築、方、一、本、系、工、本、組、以、為、何、集、院、重、考、不、
冊、締、約、之、通、約、定、付、尚、監、督、之、為、中、子、各、五、五、五、五、五、
計、局、各、子、各、子、各、子、各、子、置、于、替、位、之、如、子、樣、仕、度、依、子、各、
案、之、通、會、計、局、長、之、決、達、也、成、可、然、且、受、負、料、之、義、也、出、來、
方、何、台、通、締、約、不、仕、之、義、也、他、常、之、急、速、之、要、也、固、定、別、之、
履、行、之、仕、事、之、監、督、也、其、多、子、現、場、之、審、查、也、其、時、之、會、
計、局、之、下、之、海、之、機、仕、度、列、帶、繪、回、而、其、決、也、其、決、也、

會計局、決達案

會計局

今般日本銀行設、為、空、渡、者、官、用、地、日、本、橋、正、新、
地、所、以、於、其、著、地、及、其、他、所、之、丁、目、之、著、地、據、也、該、地、
行、設、立、之、者、建、築、之、係、人、事、第、二、年、之、向、之、於、第、第、外、監、

十
甲
二

此可校尤法般日本銀行創立事務案之可也
以之通又事

明治十五年八月

松戶大藏

日本銀行

約定書

五 四	五 四
五 四	四 七
四 七	
五 四	
四 七	
五 四	
四 七	
五 四	
四 七	

一金壹万二千二百七拾八回五拾七錢九厘

右に

前記の金高を以て式法算し、以て所付の金に同而仕
候事、通り念入申上、付て依之左之に際、通り、約
定仕事也

一 来二日より着手仕九月三十日迄、此の通り皆七奉可仕

事

一 仕様書及回初に情、相違、或は不明、因成、作、此、時、何、を、以、て、之、を、以、給、回、り、通、り、直、可、申、上、五、し、合、生

土甲

日本銀行

元增費者一功自并勿論、以有之事

一 廣增又一様様替之、為一之、初之仁様書、圖面、掛
紙、以其仕様、此之、下、以、掛、以、換、取、之、止、私、之、功、あり、し
補、申、仕、申、旨、加、費、金、ノ、増、減、明、細、書、差、出、し、之、間、是、
ケ、而、以、換、取、可、し、下、之、若、右、之、手、續、不、仕、方、ハ、決、テ、不、費
金、以、下、之、事、納、金、事、

一 該、原、申、本、人、近、七、年、地、故、障、お、生、し、之、所、ハ、保、証、
引、金、留、出、来、之、仕、方、保、証、人、ト、又、故、障、お、生、し、以、上、お、
取、引、金、以、ハ、木、材、中、地、以、上、の、築、一、附、テ、以、上、の、各、工、掛、込、
取、引、物、生、于、仕、方、に、納、取、代、金、ト、義、ヲ、出、来、形、ハ、
步、面、之、金、額、等、納、取、下、ノ、事、

一 但、步、面、ハ、ハ、孫、ノ、所、有、以、是、極、可、キ、事、

一 皆、出、来、約、定、日、限、前、ト、テ、又、仕、事、掛、取、ノ、以、上、

約定日限近、男也来之、是諾す之時、清原は
父ら御付も是も異議申上り来り、就て平之助に
所分總テ前條と通り申上り申す事
一清原を以て後と儀、連累出来候に、存し時、お高
之に内渡し可しと申す事

但し素形歩通了之義、以て掛り、何れは是極
ナ可しと申す事

右之條、碓ト約定仕上り、本人、分給候所人にお
寄し、決テ遠約、仕上り、依之、為後論連累約定書
等、上無事也

京極色本秘所、平之助、抄を、御地
酒原人、土本組、改示

明治十五年九月

伊集院 常一

宗務正心堂地
 吉田吉治郎
 保河人
 ○

甲 第二号

明治十五年九月一日 日本銀行創立五拾五周年紀念

吉野 隆 謹

創立五周年



日本銀行株式會社加入中込者お母通の御手紙
大存心語可く此方たしく是出の年お成り此の未
宛也

日本銀行株式會社加入中込者お母通の御手紙

日本銀行株式會社加入中込者お母通の御手紙
所請の御手紙は各様宜しく御格、遠合、者、好、手紙、

徐州方公系：係，即許可也。咸亨所取上中下也。

明正五年九月日。

日年明正行氣三五事。

方花按古土法有如意濟

方花古土法有如意濟

大正年心松乃正義殿

竹
劍
之
子
潘
石
振
新
唱
道
修
此
乃
其
家
也

甲第六号

明治十一年九月廿一日 日本銀行創立了路取扱

支那銀行

創立委員



定額出資可、幾手在、通出花、上申、成
一紙抄出股者宛也

日本銀行定額出資、通出波尚、系者、特与

株主中、一紙抄出資者、三三三、株主、銀行、特与、特与、特与

年、一紙抄出資者、一紙抄出資者、一紙抄出資者、一紙抄出資者

一紙抄出資者、一紙抄出資者、一紙抄出資者、一紙抄出資者

明正德五年九月

日序恨行刺之毒

大元控古世家如夜

大元控古世家如夜

大元控古世家如夜

大元控古世家如夜

甲寅九月

明治十五年十月

吉原少輔院改印

日本銀行創立之事情

志加具隆

創立委員

西田

善

定額而法可濟之正名其業準一由之於條例第十九條
望事特撰之我左之通事年一於成之在抄出可也

上申案

日本銀行定額而法可濟之正名其業準一由之於條例第十九條
望事特撰之我左之通事年一於成之在抄出可也

根柢を以て持て惣會の事没言力也。軍書時日之邊也
近來之ハ持て惣會の利害之重之旨を一面惣會に據り
之我ハ割と委也。於て持て中一最之重之旨を以て
數名之條跡ヲ據て之中一之旨を以て中一有り。惣會に據
邊相成交尤十年十六年二旨ノ據て惣會に據り更之
公据出之、之モ之據て右者邊百在東京横濱大坂小坂據て之中一
至三年據て中一モ一爲諮詢或る義一固異存也
之據り亦併し我亦併り可成交也。此の事一也
明治十年一月一日

日本銀行事務長

大正十年元

中一割と之隱り惣會の事乃下三在也持て邊也
之法也其之據り中一也

時日新聞第...
明治二十一年十一月

日本銀行...
...
...

電報
予多詳細一報通之
是之收入之計と存
おのれに
此の年一也

明治二十五年六月日也

日中銀行の宣書

大正九年六月日也

大正九年六月日也

大正九年六月日也

大正九年六月日也

壬 二十

日
岸
平
行
年

特許狀

特許狀

東京府下ニ於テ創立スル日本銀行ヨリ差出セル
定款ニ據リ日本銀行ハ我々大...
明治十五年六月二十七日太政官第三拾貳号ヲ以テ布告セ銀
行本銀行條例ノ旨趣ニ遵據シタルト明確ナル旨有限責任
明治十五年十月十日ヨリ向フ滿三十拾年即チ明
治四拾六年十月九日迄右條例ヲ恪守遵奉シテ
其業務ヲ經紀スルコトヲ茲ニ特許スルモノ也

右ノ証據トシテ人並ハ...
証名請...

印ヲ鈐スルモノ也

明治十五年 月 日

大藏卿姓名印

大藏省印

二十

東... 日本... 國... 出...

掛... 紙...

天... 青...

紙... 行...

日本銀行為替所蓋印
五年十月七日

三十一

甲功拾五

明治十五年十月

創立委

出体局并合
是也 創立委
以公認之中
以之生以之

日本銀行

出

尾書少し
ハ下
尾書少し
ハ下

法方
法方

● 民衆の心をなだめしむるに
● 民衆の心をなだめしむるに

● 民衆の心をなだめしむるに

● 民衆の心をなだめしむるに

● 民衆の心をなだめしむるに

● 民衆の心をなだめしむるに

● 民衆の心をなだめしむるに

● 民衆の心をなだめしむるに

● 民衆の心をなだめしむるに

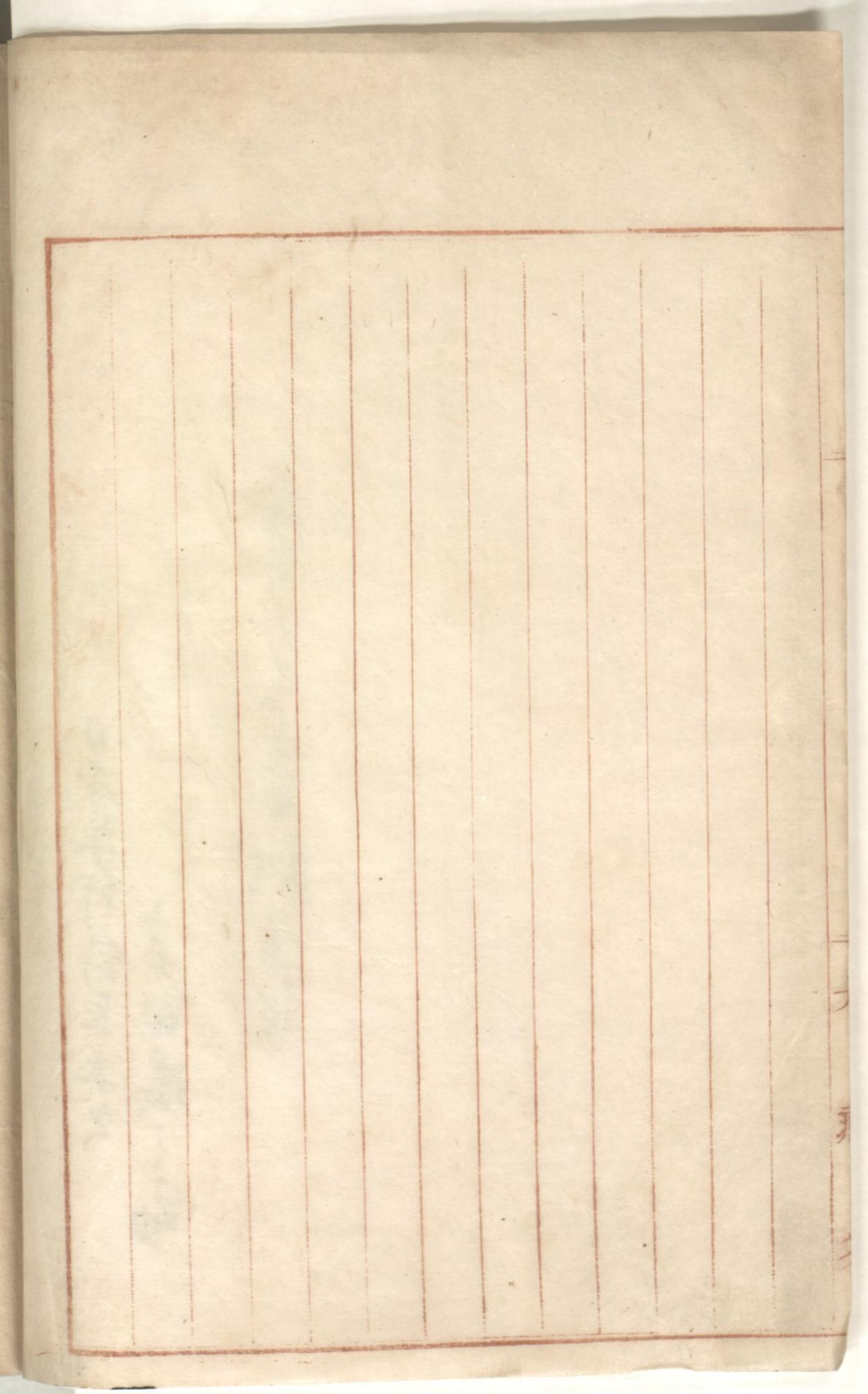
● 民衆の心をなだめしむるに

● 民衆の心をなだめしむるに

日有厚利新三季欠

二五田穡一助

人必野乃長之自新信股



甲子年

正月十日



日

刻

刻



陽生多一四坤也... 可如也

書

日切... 一... 可如也

口切海の別立の海山具

十一年十月一日 口切海の別立の海山具

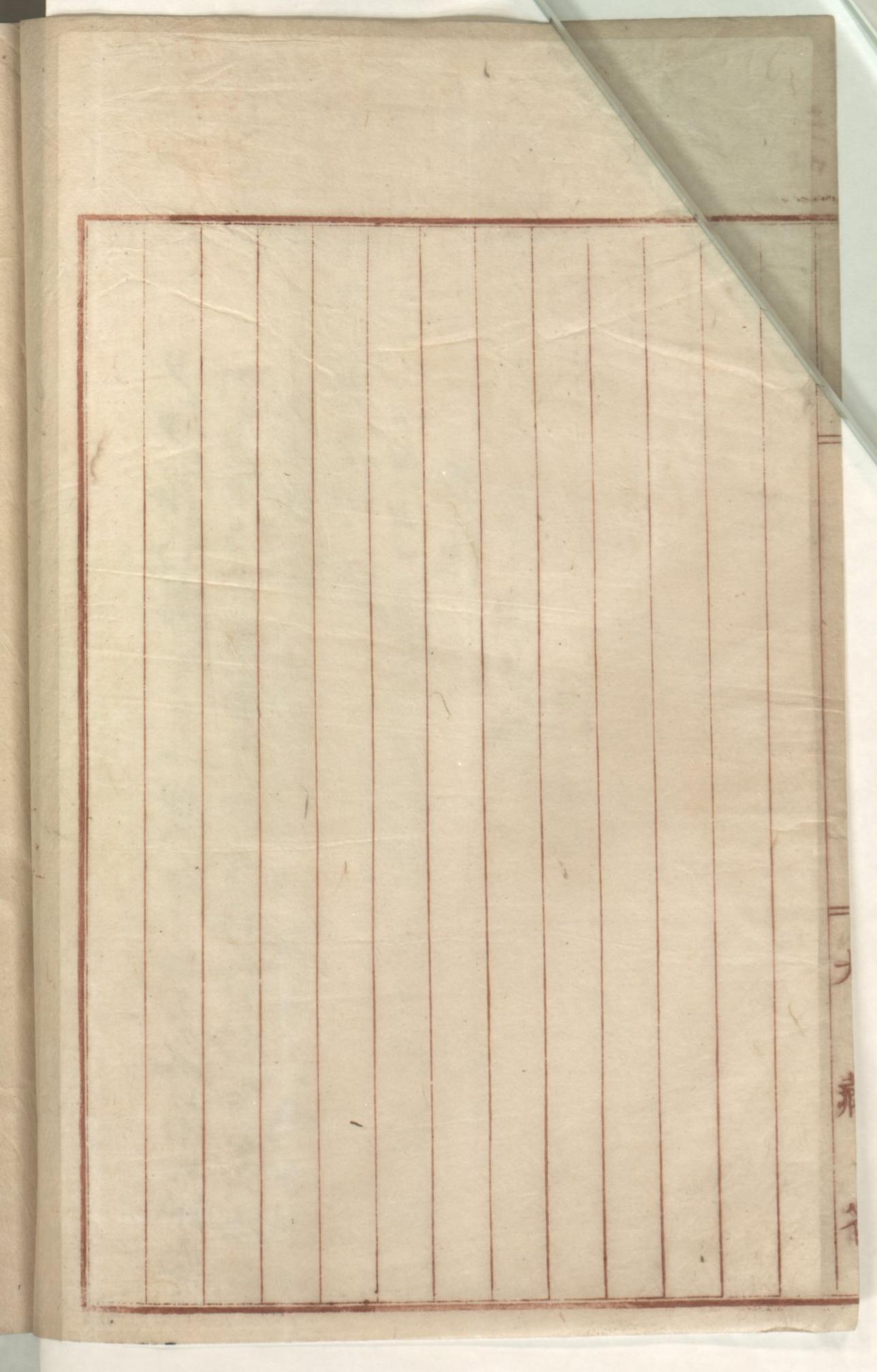
日少... 抄... 一... 曲... 入... 心... 台... 方... 山... 地... 為...
能... 力... 以... 心... 為... 主... 日...
日... 山... 地... 為... 主... 抄...
阿... 阿... 阿... 阿... 阿... 阿... 阿... 阿... 阿... 阿...

十... 十... 十... 十... 十... 十... 十... 十... 十... 十...

抄... 抄... 抄... 抄... 抄... 抄... 抄... 抄... 抄... 抄...

抄... 抄... 抄... 抄... 抄... 抄... 抄... 抄... 抄... 抄...

抄... 抄... 抄... 抄... 抄... 抄... 抄... 抄... 抄... 抄...



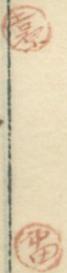
乙亥

明治十五年七月三十日 日本銀行了務所

十五年七月十四日
被 二

大受乾初七三三
十五年七月十四日
生并深平局

創立 年女



一 本局志 昭 禮

日本銀行 株主 募集 廣告 以 決定 去年 三月 尚
創立 了 務 所 年 女 月 左 之 通 大 局 以 上 申 委
了 知 哉 以 其 宣 規 也

但 大 公 債 以 大 政 官 印 上 申 委 其 創 也

三五

日本銀行

日本銀行株主名集之義止伸

日本銀行株主名集之義外幣廣告之通告
開幣之全玉、廣告之、此以上伸、也

明治二十五年七月三十日

日本銀行創立事務報告

大藏省大藏省如後

大藏省大藏省如後

大藏省大藏省如後

大藏省大藏省如後

廣告案

日本銀行株主名簿在東京廣告

今般日本銀行創立以來之語此行株主名簿其
入金規則在左通水定十之五株主加入望之者
加小申込書、株名等數分賦案係所(類雜姓
者書)詳記し、西別二通之、為事務所
自必出既又一書而之、此四方廣告、事
明治五年七月廿八日

東京大坂名中

日本銀行創立之事務所

一日本銀行株主、左、割者、此、入金、可、し

廿一四

四拾四
株主名簿

日本銀行

但昭和十五年九月二十五日付三丁〇〇〇ノ金ノ本

第二回

少控の控

但十六年五月二十五日付三丁〇〇〇ノ金ノ本

第三回

少控の控

但十六年十月二十五日付三丁〇〇〇ノ金ノ本

第四回

少控の控

但十七年五月二十五日付三丁〇〇〇ノ金ノ本

一 和五回少控ノ入金ハ銀行ノ部員トシテ署名スルニ

シテ銀行ハ少控トシテ日毎ニ簿記スル者トシテ

署名スルノ事ヲ要スルニ付毎ニ少控ノ入金

ナラス 四拾四〇〇〇ノ金カラサレタル事

二十八

大政大臣、少仲、稟

日、奉、御、行、様、之、旨、奉、集、之、義、并、少、仲、

日、亦、御、行、様、之、旨、奉、集、廣、告、之、義、并、少、仲、也

修、御、行、御、立、之、旨、奉、申、出、之、旨、并、少、仲、也

明、治、十、五、年、七、月、三、十、日

大、政、大、臣、松、方、正、義

大、政、大、臣、三、條、實、美、殿

日、本、長、行

日本銀行事務所
五年七月廿六日

東京
郵便

本
名
方
百

大坂

三十九

乙芳ニリ

明治十五年七月廿六日

創立委員

日本銀行創立子路所

一芳居志賀隆平
貴原上条也哉

日本銀行株式會社廣告
我 東京 日本新聞
報知新聞 明治日報 朝野新聞 陸軍新聞 五新聞
各七百圓 地方新聞 大阪 大東日報 七百圓 基地
京都 廣島 名古屋 宮城 函館 新潟 神戶 新聞
各五百圓 子息 廣告 廣告 廣告 廣告 廣告 廣告 廣告 廣告

廣告 廣告

日本銀行株主募集廣告

今般日本銀行創立、付之、該銀行株主募集、兼入金
銀限等左、逐個定、是條株主加入、者、加入中、此、
株數金額、之分、職業、住居、(原籍)姓名等、詳記、之、別
二、通、之、以、當、事、務、取、扱、所、(東京)身、去、所、又、ハ
書、面、之、以、申、出、此、所、旨、廣、告、候、事

明治十五年七月十日

在東京大森町

日本銀行創立事務取扱所

一、日本銀行株主、左、割、合、の、準、に、入、金、可、し

第一回

四拾圓(株主出資)

但明治十五年九月十日より同三十日まで入金可し

第二回

北拾園(吉棟尚氣)

但十六年正月十日、同辛酉、入重ノ事

第三回

北拾園(吉棟尚氣)

但十六年十月十日、同辛酉、入重ノ事

第四回

北拾園(吉棟尚氣)

但十七年正月十日、同辛酉、入重ノ事

一升立回ハ降ノ入重ハ限行ノ都合ニヨリ、幕府ニ可シ

甚切限ハ少クモ六月前ノ慶長ニ在ルニ其

幕府ニ在ル額ハ一回毎ニ吉棟ノ北拾園ヨリ、少

四拾園ヨリ多クヤリキ事ナリ

Blank manuscript page with vertical red lines.

乙卯三月

四月十五日庚午

日本海新創三日路所報

一寄原志賀(隆)廣

創立委員



日本海新創三日路所報
據其委員集會報告書中
定於三月廿五日
橫濱市內
當事務所
多由地方新聞
廣告
該地方官
信賴
方為
左
是也
此為相覽也

日本海新創三日路所報
據其委員集會報告書中
定於三月廿五日
橫濱市內
當事務所
多由地方新聞
廣告
該地方官
信賴
方為
左
是也
此為相覽也

教子我少力計一古法至且廣善科之義也
馬官少力計一古法至且廣善科之義也
西法年五年七月十日

日本銀行創設可路安負

大正六年七月十日

古原 平

京都府京都市

大坂府大坂市

長崎縣長崎市

廣島縣廣島市

香川縣高松市

宮城縣仙台市

函館縣函館市

高子行以少山行七角之論 各通

平口所之新寸發先年之氣 在者上之論
張者如所 坎何之是 以之 各通

